

安心の番人

獣医師が足りない

②

万葉集にも詠まれた柔らかな稜線が美しい徳島市のシンボル、眉山が見下ろす徳島県庁。2階の生活衛生課に厚生労働省から電話が入ったのは2年前の7月だ。

「徳島市内の業者が中国から輸入した冷凍ウナギから、微量の抗菌剤が検出された」。前橋市内のスーパーで冷凍のウナギのかば焼きから、国内で使用が禁止されている抗菌剤と、その代謝物が検出された。土用の丑の日を前に、全国の小売店にウナギが並ぶ時期。「大変なことになる」。当時、同課主幹だった福井広祐課長(54)ら獣医師職員は直感した。問題のウナギは5カ

月に輸入され、北海道から沖縄県まで全国に流通していた。徹夜で関係保健所へ自主回収を伝えるファクスを送った。全国の小売店から戻ったウナギは総計約5トに達した。08年2月、徳島県内

「食品衛生監視」現場苦闘

を揺るがす事件に対応

日本最大の青果市場、東京都中央卸売市場、東京都中央卸売市場、東京都中央卸売市場

国民の「暮らし」守れぬ

の店頭に並ぶ中国製冷凍ギョーザの包装から殺虫剤ジクロロロスが検出された。福井さんは腹部大動脈瘤の手術を受け、職場に復帰した直後。傷口にさしを巻いて調査を指揮した。同年9月には、化学物質「メラミン」が



青果などの食品の安全性をチェックする大山みゆき所長(東京都大田区で、梅田麻衣子撮影)

の記載がないのに異常に鮮やかな色の加工食品や、保存料不使用のはずなのに腐らない総菜が見つかる場合も。異常を見つけたればサンプルを持ち帰り、農薬や添加物などの検査をする。「クロ」なら流通をストップすることもある。「市場を毎日回ること得られる細かい情報が安全性のチェックには欠かせません」。大山さんは現場にこだわり、毎朝1時間半、スニーカー姿で市場を歩き回る。

全国公衆衛生獣医師協議会によると、食品行政などの公衆衛生分野に進む卒業生は昨年、2年前の約半分しかいなかった。同協議会の廉林秀規会長は「食品行政など国民の暮らし全体を見渡す仕事ができなくなる」と心配する。 〓つづく

◆ ◆ 混入した疑いのある中国製牛乳を使った菓子パンが、県内の学校や福祉施設に納入されていたことが判明。休日返上し、24時間態勢で情報収集をした。しかし徳島県は「最近10年、定員割れの方が多い」と獣医師不足に悩む自治体の一つ。07、08年度、食の安全を揺るがす事件に対応する一方、福井さんら県庁勤務の職員3人は週1回ずつ食肉衛生検査所の応援に入った。午前は検査所で牛や豚の肉をチェックし自宅でスーツに着替えて午後3時ごろ県庁へ戻る。たまった書類を片付けてと夜が更けた。

◆ ◆ ウナギ、ギョーザ、菓子パン。いずれも獣医師のイメージからは遠いが、公務員獣医師は「食品衛生監視員」として食品の監視や検査もする。医師、薬剤師、栄養士らも資格を持つが、「原料から生産、流通まで、全体を科学的に判断できる」獣医師は重宝される。

日本最大の青果市場、東京都中央卸売市場、東京都中央卸売市場、東京都中央卸売市場

場大田市場(大田区)は1日3000ト以上の食品を扱う。安全性をチェックする都市場衛生検査所大田出張所のトップも獣医師だ。午前8時過ぎ、白い作業着と帽子に身を包んだ同出張所の大山みゆき所長(53)が、市場の喧噪に足を踏み入れた。レンコンやゴボウは見た目を白くするため漂白剤が使われることがある。逆に着色料

の記載がないのに異常に鮮やかな色の加工食品や、保存料不使用のはずなのに腐らない総菜が見つかる場合も。異常を見つけたればサンプルを持ち帰り、農薬や添加物などの検査をする。「クロ」なら流通をストップすることもある。「市場を毎日回ること得られる細かい情報が安全性のチェックには欠かせません」。大山さんは現場にこだわり、毎朝1時間半、スニーカー姿で市場を歩き回る。

全国公衆衛生獣医師協議会によると、食品行政などの公衆衛生分野に進む卒業生は昨年、2年前の約半分しかいなかった。同協議会の廉林秀規会長は「食品行政など国民の暮らし全体を見渡す仕事ができなくなる」と心配する。 〓つづく